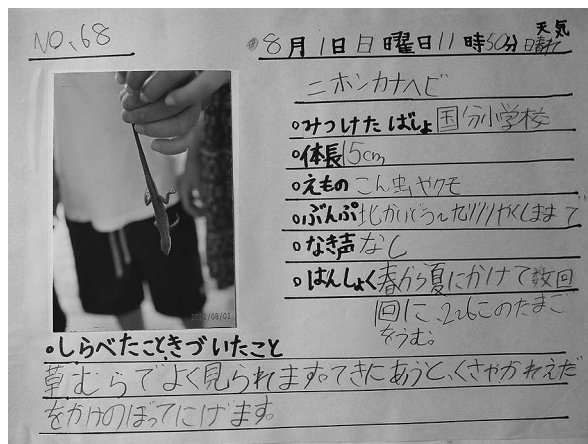


【図3 生き物図鑑No60】

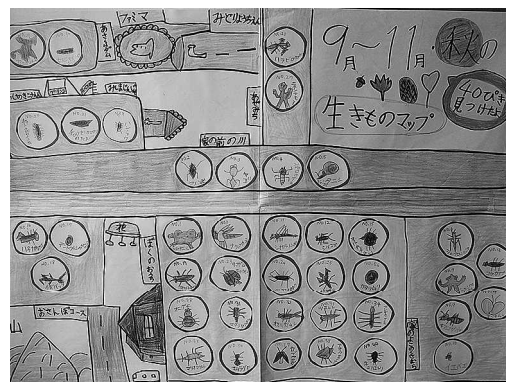


【図4 生き物図鑑No68】

6 生き物マップ

(1) 秋の生き物マップ (図5)

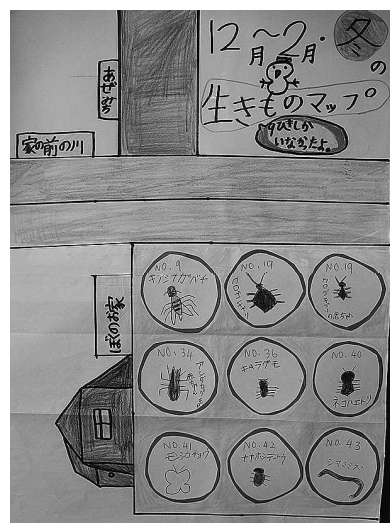
秋は鳴く虫をよく見かけた。例えば、コオロギやマツムシ、ツユムシなどである。9月ごろは、まだまだ暑かったので毎日のように虫を見かけた。ということは、虫は、暑いときによく出てくるのかな？冬になるとどうなるのか楽しみだ。僕は、冬は少ないと思う。



【図5 秋の生き物マップ】

(2) 冬の生き物マップ (図6)

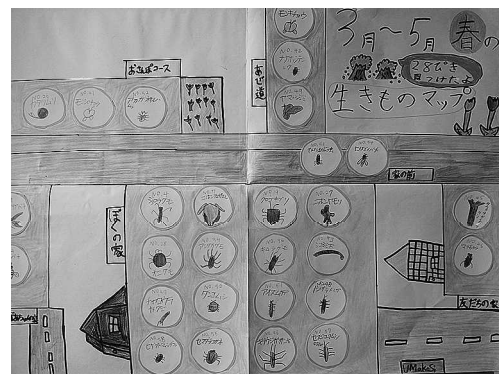
冬はたったの9匹しか見付けられなかった。やっぱり虫も、冬になると冬眠するのかな？でも、クモやゴキブリは冬でも見つけた。1年中いるのかな？寒さにも強いのかな？テントウムシは葉っぱの裏に隠れていた。僕が気付いていなかっただけで、ほかの虫も葉っぱの裏にいたのかもしれない。虫たちはそうやって寒い冬を乗り越えているのかもしれない。



【図6 冬の生き物マップ】

(3) 春の生き物マップ (図7)

冬の虫は少なかったけど、どんどん春になるにつれて虫もたくさん増えてきたと思う。たぶん、冬眠から目が覚めたからかもしれない。だから、夏の虫は、10倍くらい増えると思う。夏の虫を見付けるのがすごく楽しみだ。春は、花がたくさん咲いてくるので、その花の蜜を吸うため、チョウやハチなどがたくさんいた。ダンゴムシやナナホシテントウは毎日のように見かけた。夏は虫取りをするのも楽しみだ。



【図7 春の生き物マップ】

(4) 夏の生き物マップ (図8)

夏は、朝早くからセミが鳴いていた。6月の終わりくらいから、カエルの赤ちゃんが毎日庭に30匹ぐらいいた。きっとオタマジャクシからカエルになったばかりなのだと思う。芝には、

るのだと思う。

夏と秋は、虫を食べるのが多い。理由は、夏と秋は小さな虫もたくさん出てくるので、それらを食べていると思う。

冬は、虫もほとんどいないので、植物を食べるで育っているのではないか。

(2) 結果発表 (図11)

予想がはずれた。冬は虫があまりいないので植物を食べると思ったが、虫を食べて生きるのが多かった。それと反対に、春・夏は植物を食べる生き物が多かった。それはなぜだろう？春・夏は花や野菜がたくさんあるからかな？秋はほぼ同じ結果だった。季節によって虫を食べたり植物を食べたりと、生き物たちも工夫して生きているのだと思った。

【図11 生き物のえさを分類しよう】

9 脚の数を比べよう

たくさんの生き物を1年間で見付けた。それで、生き物の脚の数がそれぞれ違うことに気が付いた。だから、調べてみることにした。1学期の理科の時間、昆虫の脚は6本と習った。何種類の昆虫がいるか楽しみだ。

(1) 結果発表 (図12)

季節は関係なく71匹中46匹が6本脚の昆虫ということが分かった。ということは、僕の身の回りには「昆虫」が多いことが分かった。あとクモは全て脚が8本だった。一番びっくりしたのは、ヤケヤスデの脚が、60本だったことだ。あんなに小さいのにアオズムカデより脚が多いのかと驚いた。

10 感想と成果

僕は、この理科研究を1年間掛けてやってきた。一番大変だったことは、図鑑に載っていない生き物を見付けたときだ。図書館に行っていていろいろな本を見て調べてみた。生き物マップを作るのも大変だったけど、僕は、毎日空いている時間にこつこつとやっていたので大丈夫だった。この研究をしてみて、季節ごとの生き物を詳しく知ることができた。そして、虫などを見付けるたびに、「これは、○○だよ。えさは○○だよ。」とみんなに教えてあげられるようになった。来年は、もっと詳しく内容を深めて研究していきたい。

【図12 脚の数を比べよう】

11 参考にした本

- 「NEO危険生物」小学館 / 「NEO昆虫」小学館 / 「NEO両生類はちゅう類」小学館
- 「昆虫の図鑑」学研 / 「昆虫 (学研の図鑑)」学研